

小川キリシタン墓碑

この墓碑は私有地内に置かれていますが、草地を通って見に行くことができます。上面がわずかに弧を描いているこの長方形の柱型の墓石は、本来は地面に平置きにされるよう作られたものの、現在は縦置きで展示されています。正面に浮き彫りされた花十字（十字の各先端が三位一体を表す三枚の花弁で飾られた十字架）の非常に良好な保存状態は特筆に値します。

この墓碑は 1902 年に郷土史家の森豊造氏によって発見されました。同年、森氏は近くの中洲川でさらに 4 基の墓石を発見しました。これらの発見は、長崎県におけるキリシタン墓碑発見の黎明とされています。

日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている 192 基のうち、146 基が長崎県にあり、その全てが 17 世紀初期のもので、（1581 年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という 3 文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えると良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置きの中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。